令和元年度　鳥取看護大学・鳥取短期大学　地域研究・活動推進事業助成金　報告

生涯学習社会における社会情動的スキルの実証的研究

増田 圭佑（Keisuke MASUDA）

【研究の目的】

本研究の目的は、認知的スキルと社会情動的スキルが及ぼす社会経済的成果について、安全への認識やリスク回避という視点から、鳥取県内の運転免許センターで運転免許講習を受講する普通自動車運転免許所有者に対して質問紙調査を実施し、交通安全への意識と個人のパーソナリティ特性との関連性を明らかにすることである。

○共同研究者・協力者　　田川　一希（鳥取短期大学 幼児教育保育学科）
前田　舞子（鳥取短期大学 幼児教育保育学科）

【内　容】

今日の生涯学習社会では、現在学習の社会的成果が問われている。学習の成果については、主に学校教育の制度下において、どのような知識や技能、資格や学歴等が個人の生涯に影響を与えるのかという人的資本の枠組みで、経済学、社会学の分野で研究が行われてきた。しかし、近年このような人的資本の枠組みだけではなく、行為者の関係性と行為者間のネットワークに焦点を当てた社会関係資本や 2003 年に OECD による「キー・コンピテンシーの定義と選択(Defining and Selecting Key Competencies: DeSeCo)」プロジェクトの中で報告されたコンピテンシーを指標として、学習の社会的成果を分析する試みが行われている。

これらの指標を用いて、学習の社会的成果を測定しようとする背景には、学校教育を通じて獲得される知識、技能や資格、学歴などが個人の学習成果の１つの側面であり、同様に生涯を通じて、多様な人間関係を構築し、他者と協調関係を形成し、そして自律的に活動する力がどのように育成されるのかについてもその成果の部分が問われるようになってきたことが挙げられる。OECD 教育研究革新センター(2008)の報告書で述べられているように、社会的成果とは「主に個人および公共の非金銭的分野」（OECD 教育研究革新センター、2008 年、p.68）を対象としており、政治的安定性、社会的凝集性、犯罪の減少、不公平の減少、反社会的行動の減少など、公共性に対して教育や学習がどのような影響をもたらすのか、ということを意味している。

さらに、OECD 教育研究革新センターの教育と社会進歩プロジェクトによる調査報告書（本書は日本語訳版として 2018 年に無藤、秋田らによって出版されている）は、個人がもつ認知的スキルと社会情動的スキルが、社会経済的成果だけではなく、個人のウェルビーイングにおいてもより効果的な役割を果たす可能性があることを主張している。この報告書は、OECD 加盟 9 ヶ国で行われた縦断的研究分析のエビデンスに依拠しており、認知的スキル（読み書き能力、学習達成度テスト、成績などで測定可能なスキル）と社会情動的スキル（忍耐、自己肯定感、社交性などの個人のパーソナリティ特性を指標とするスキル）の双方が、経済的および社会的な成果を向上させるうえで重要であると報告している。とりわけ、社会情動的スキルは、労働市場や個人の学業達成、健康、主観的ウェルビーイングに対して、認知的スキルよりも大きな影響を与えているというエビデンスが提出されている。

加えて、幼児期や学齢期における経験、学業成績の到達度、そして個人のパーソナリティといっ

た学習者自身の「スキル」が社会経済的成果にどのような影響を与えているのかを示す研究が近年報告されている。それは例えば、アメリカのペリー就学前プロジェクトや英国のシュアスタート・プロジェクトといった幼児期や学齢期における介入プログラムである。これらの介入プログラムは、家庭の貧困に取り組むことを目的として開始されており、学習意欲やIQの向上、子どもの自立性や自己制御の向上が報告されている。OECD教育研究革新センターが「OECDの縦断的分析と実証的文献が示すエビデンスは、社会情動的スキルが、認知的スキルとともに、子どもが人生において成功するために重要な役割を果たすことを示唆している。社会情動的スキルは、社会的成果の向上において特に効果的であり、認知的スキルは、高等教育や労働市場での成果に関して特に重要である」(OECD、2018、p.98) と報告しているように、幼児期や学齢期における「スキル」の社会的成果が強調されている。

これらのスキルが学校教育や家庭、地域社会など様々な領域で獲得されるとすれば、幼児期や学齢期に培われるこれらのスキルの社会的成果が、個人のウェルビーイングにどれほどの影響を及ぼしているのかが重要である。なぜなら社会経済的成果への貢献という観点において、社会情動的スキルが個人のウェルビーイングや貧困にポジティブな効果をもたらすのであれば、社会情動的スキルは、個人が「よりよく生きる」ために必要な基本的な資質や能力として位置づけられるからである。そこで本研究では、普通自動車運転免許所有者に質問紙調査を実施し、社会情動的スキルが個人のウェルビーイングにどのような相関をもたらしているのかを明らかにする。それにより、社会情動的スキルが、個人が「よりよく生きる」ために必要な基本的な資質や能力として位置づけられ、また個人のウェルビーイングに影響を及ぼすことを提示できると考えられる。

【方　法】

本研究は、2020年３月までに鳥取県中部地区運転免許センター（鳥取県東伯郡湯梨浜町大字上浅津216）で運転免許講習を受講する普通自動車運転免許所有者に対して質問紙調査を実施する。サンプル数は、200名程度を予定しており、得られたデータは統計ソフトRを用いて解析する。具体的には、受講講習の種類、交通事故の頻度や交通安全への態度を応答変数、日本語版ビッグファイブ指標(TIPI-J)を説明変数として、一般化線形混合モデル(GLMM)による統計解析を行う（図１）。項目間の対応関係を明らかにするため、構造方程式モデリングを用いた統計解析も併せて行う。

また、対象者の倫理的配慮については以下の点について配慮する。

（１）対象者の保護と安全の確保

対象者は、質問紙回答にあたって、危険に晒されることはない。研究に対する協力は、対象者の自由意志による。

（２）インフォームド・コンセント

本研究計画および倫理的配慮に関する項目を記した文書を対象者に提示し、その内容に同意した対象者のみが回答する。倫理的配慮に関する項目は以下の通りである。

・回答は強制されるものではなく、参加しないことで不利益を被ることはない。
・回答しない項目があっても構わない。
・調査は研究目的でのみ使用し、統計的に処理される。個人の回答をそのままの形で公開することはなく、個人が特定されることもない。

（３）個人情報の保護

本質問紙調査では、個人を特定できる情報の記入を求めない。回収した質問紙は、免許センターを介して研究代表者・研究協力者に渡される。その後、研究代表者の個人研究室（施錠可）にて厳重に保管し、情報の漏洩を防ぐ。質問紙は５年間保存し、保存期間終了後はシュレッダーを用いて廃棄する。データ解析にあたってコンピュータを用いるが、コンピュータ本体とデータフレーム

にパスワードを設定する。

現時点で、質問紙は完成済みである。2019 年 11 月まで、質問紙とその分析内容・方法について、先行研究等を踏まえながら、協議を進めてきた。さらに 12 月より、調査対象である鳥取県中部地区運転免許センターとの交渉に入り、質問紙等の修正を重ねてきた。センター側から正式な承諾をいただき次第、すぐに調査を始める予定である。

今後は、質問紙調査の実施及び回収を計画通りに進めていき、2020 年６月までに分析を行う。分析した結果については、学会報告及び学術雑誌への論文投稿等を通して、公表していく。

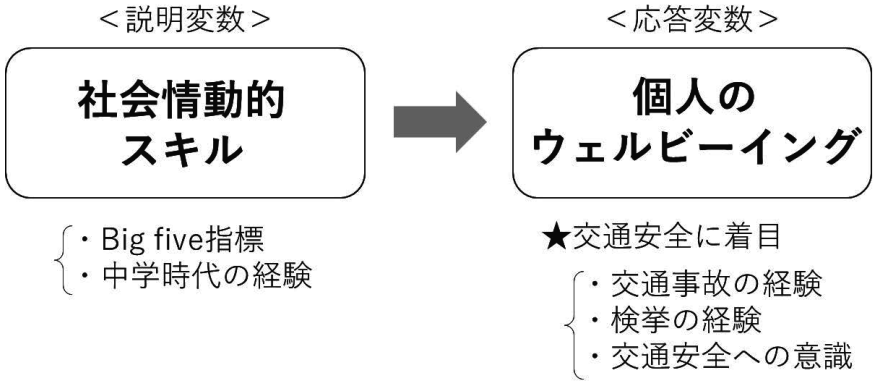

図１．解析全体の模式図

【引用・参考文献】

・経済開発協力機構（OECD）編、無藤隆、秋田喜代美監訳『社会情動的スキル―学びに向かう力』明石書店、2018 年。

・OECD 編、高木郁郎監訳『子どもの福祉を改善する―より良い未来に向けた比較実証分析』明石書店、2011 年。

・OECD 教育研究革新センター編、NPO 法人教育テスト研究センター（CRET）監訳、『学習の社会的成果―健康、市民、社会的関与と社会関係資本』明石書店、2008 年。

・露口健司「キー・コンピテンシーが社会関係資本の醸成にもたらす効果―学習の社会的成果についての検討―」『愛媛大学教育学部紀要』第 63 巻、愛媛大学教育学部、13-29 頁、2016 年。

・内田浩史、日置孝一「社会化と経済・教育・社会的成果」『経営研究』58 号、神戸大学大学院経営学研究科、1-22 頁、2014 年。

・池本美香「経済成長戦略として注目される幼児教育・保育政策―諸外国の動向を中心に―」『教育社会学研究』第 88 集、日本教育社会学会、27-45 頁、2011 年。